

## 5分野の現状と課題に対する委員意見

○項目に対する意見 ●その他の意見

## 1 学習活動分野

## ① 誰もが参加しやすい学習機会の提供

	ご意見
1	<p>○文化・障害の有無等という壁を取り払い、すべての人が「共に学ぶ」ための場・時間・機会の提供に取り組む。</p> <p>○「弱者支援」ではなく「すべての人が互いに共存し助けあって」学ぶ学習機会を提供する。</p> <p>○「健常者（優位者？）が弱者」への「人にやさしい」関係ではなく、「すべての人がすべての人」に「人がやさしい」関係の「生涯学習」に。</p> <p>●表現が難しいのですが、「外国人・障がい者への〇〇支援」という言葉には「対等関係でない」無意識な優越性を感じる場合もあるかもしれません。私たちも、「外国人・障害者の方に助けられて支えられている」という意識を育てるような生涯学習の方向性を構築するのもありかと思えます。</p>
2	<p>○大枠は記載の通りと思うので、これらをどう具体的に事業に反映させるかを考え、あるいは広く意見を募るなどで実現していく。</p> <p>コロナ禍でやる事が無い人たちがスマホに逃げるのではなく、何かひとつでも学習する方に意識を向けることがより豊かな人生を過ごすきっかけになる事例など多く紹介するなど。私もこの1年で様々な補助金支援金の申請書を20以上は書いているので、その中で様々な「却下」を経験し、法律の知識が様々な申請において重要であることを痛感したものです。そんなことで行政書士の勉強など始めたりと、きっかけはすぐそこに転がっていると思います。</p>
3	<p>○誰でも参加しやすい学習機会を提供するのは良いことであるが、1. レベル 2. 興味 3. 時間帯などが異なる。可能ならば、講座、コース等を増やし、選択肢を多くする事が有効であるが、難しいと思われる。多くの方が興味を持って楽しく学べる機会が良いと思うが、多様な人（年齢や文化の異なる人、障害のある人）を理解し一緒に学び、コミュニケーションを取っていくことも、それ自体も学びになると思う。</p>
4	<p>○東京都が提供しているサービスにも目配せをして、重複することのないように企画していくこと、また、すでに行っている施策もその効果を常に注視し、必要に応じ、思い切って廃止していくことも検討していくことが大事かと思えます。</p>
5	<p>○「子どもから大人まで」を謳っているものの、現状は夏休み等の期間を除き、若年層向けの講座が少ない印象を持っている。文京区は教育意識の高い子育て世代が多いため、子ども向けの講座を拡充することで、若いうちから活動する受講者層を育成できると共に、文京区の魅力向上にもつながるのではないかと。</p>
6	<p>○学校に関わる中で、このコロナ禍において、経済格差による学習格差は顕著なものがある</p>

	ご意見
	<p>る。</p> <p>特に、塾に通っていない子ども、或いは習い事をしていない子どもは、それらに通っている子ども達に比べると学習機会が少ない。文京区の学校が多い、という土地柄を活かし、大学との協力でそのような子どもたちへの学習機会、文化芸術に触れたり、スポーツに参加できる機会が確保できるのではないか、と思う。</p> <p>これらを実現した結果、区民同士の繋がりや、学生が文京区に愛着をもって地域に密着した活動を展開してくれたらと思う。</p> <p>●高齢者や外国人、障害のある人が、子ども達と一緒に学ぶことのできる環境もあれば、双方のために更に有益な学びとなるのでは、と思う。</p>
7	<p>○「思い立った時に、時・場所を選ばずに」ということでは、その目的に合致したツール（スマホ、タブレット、PC、パッケージソフト、YouTube、CATV等）への対応と学習ソフトの蓄積が必要。それらの整備が求められる。一方で、現行の様々な学習機会をもっと知らしめていくことも重要と思う。まだまだ知られていない機会損失が多々あるのではないかとも思う。</p> <p>○若い世代の参画推進策は、次世代への継続性・発展性からも極めて重要であり、区内の学校、企業、サークル等と連携を図り、資格制度・同好会化・サークル化の推進が望まれる。</p> <p>○図書館のポテンシャルは高く、本来業務以外での活躍が期待される。地域資料や地域の歴史の紹介・地域に関係する著名人の功績等、魅力的なテーマの企画が望まれる。多くの地域の人々が継続的に集まれる場としての企画の検討、また着目度向上の為に区内図書館全体での一定期間を通しての企画・イベントのシリーズ化等（～月間、図書館祭り・ラリー等）の検討も必要と思う。</p>

## ② 学習活動の役割と考え方の整理

	ご意見
8	<p>○「生涯学習」の定義・イメージが区民それぞれ異なるので「学習活動」が滞りなく行われるには鳥瞰的なものが必要になる。</p> <p>○「啓蒙」ではなく「生涯学習」というものへの自発的行動を促すのがまず「役目」として大切である。したがって、区民のニーズのもとに「知識の提供の必要性」を考慮すべきである。</p>
9	<p>○ここも上記と同様仰っていることはご尤もなので、具体的な事業にどう反映するかというところを議論していくべきでしょう。SDGsは能楽界は室町時代からやっていますし、学習活動にも当然応用は出来るでしょう。</p>
10	<p>○外国人とコミュニケーションを取る機会は明らかに減少した。しかし、コロナの終息とともに回復はすると思う。しかし、外国人との出会い＝外国文化への理解、多分化共生社会への関心の高まりにはならない。こんな時だからこそ、学習して高めていくことが</p>

	ご意見
	<p>必要であり、メディア、書籍、映画などの活用も有効だと思う。</p> <p>○SDGs は、定着した言葉にはなったが、本当の意味を理解できているとは限らないと思う。持続可能な社会をめざす為に、生涯学習の立場からも支える必要があるのではないかと思う。</p>
11	○学習機会が少ない、例えば高齢者等への重点配分が望まれます。
12	○アフターコロナの国際交流の再開に向け、外国語や外国文化に触れる学習機会は必要である。また、子どもの頃から関心を高めることは有効であるため、大人向けだけではなく、若年層向けの学習機会の提供も必要であると考えられる。
13	<p>○コロナ禍で、外国文化等に触れる機会が減少しているが、一方でニュース等ではその文化の違いを目の当たりにしているように感じる。</p> <p>その情報が正しいのか判断したり、受け入れるには SDGs 第4の目標「質の高い教育をみんなに」が必要になっていると思う。</p> <p>持続可能な社会を実現するための生涯学習というものも一つの考え方ではないだろうか。</p>
14	○多民族・多文化への知識を得ることで国際社会についての理解を深めることは、益々重要となっており、協会、諸団体、大学、NPO、事業法人等の活用による学習機会提供の安定化・継続性が望まれる。一方、地域ごとに関心の高い人々が交流を深められるような、サークル化につながるような場作りの検討も重要と思う。

### ③ オンラインを活用した学習機会の提供と支援

	ご意見
15	<p>○「誰でもどんな時でも学べる」という学習機会の拡大にオンラインは不可欠である。特に教室・会場に出向くことができない区民にとってオンラインは「一生学び続ける」ための絶好の手段なるものである。</p> <p>○上記の利点を十分に活用させるには、区民へのオンラインへの誘導やサポートへの取り組みを早急にする体制も必要。</p>
16	○デジタル教育、非接触型の講座、情報交換といったキーワードは次期計画のキーワードにならないといけないと思います。オンライン講座が主体となり、対面で直接講師の地声がじかに聞けるということにプレミア感（希少価値）を出すような仕掛けが有効だと思います。
17	○オンラインの重要性はよくわかる。年齢を問わず、そのレベルにあった学びが必要だと思う、その人にとって易し過ぎる事も向学心が失せてしまうし、難し過ぎても効果がない。高齢者等弱者に教えたりする事で、技能も高まるし助け合いの気持ちも生まれるし、高齢者等の助けにもなる。助け合う、交流する等で、学びにもなり、人間関係にも良い影響が出る。孫に教わり、コミュニケーションを楽しんで、技術が伸びた高齢者もいる。

	ご意見
18	○オンライン講座の実施に当たっては、高齢者がアクセスしにくい点に特別な配慮が必要と考えます。
19	○「アフターコロナの国際交流の再開に向け、外国語や外国文化に触れる学習機会は必要である。また、子どもの頃から関心を高めることは有効であるため、大人向けだけではなく、若年層向けの学習機会の提供も必要であると考えられる。
20	○オンラインでの学習は、手軽で参加しやすいという側面がある一方で、実際に対面で感じたり体験できるものが実現しにくいという部分があるため、ハイブリッド型の学習機会の新規開発に力を入れるべきだと思う。 まずはデジタル弱者へのデジタル教育の基本学習、支援提供を進めることで、区民間での評判等の情報交換が進むのではないかなと思う。 ●オンラインでの学習は手軽だが、移動する必要が無いので忘れがちになる、という一面もあるので、リマインドメールをお送りする等対応が必要ではないかなと思う。
21	○オンライン講座の増加に伴い、オンライン利用の為の基本学習プログラムがセットされた講座内容の検討もあって良いのではないかな。 ○「オンラインか対面か」ではなく、「オンラインでも」「対面でも」と、求められるニーズに如何様にでも対応できることも求められると考える。さすれば、ある意味で、「どこでも、いつでも」に対応できるようになるのではないかな。

#### ④ 学びを通じた交流へつなげる取組の強化

	ご意見
22	○①で記したようにあらゆるバリアをフリーにした「学びの場」を提供することで今まで触れ合うことの少なかった人との交流がよりスムーズになる。 ○「対象者別の学習機会の拡大ではなく」、自分以外の他者との「異文化交流」がよりたやすく行えるような「横のつながり」の学習の場が増えるようになるといい。
23	○SDGs と関連して、講座を受けた人が次に教える側に回るといった取り組みを目指すことが重要と思われる。学生が取得し就職活動のアピールポイントとして後押し、いう記載は今時学生がそうした動機で取り組むかどうかを精査した方が良いように（個人的には一昔前の考え方かと）思います。今は一つのことにとこだわって研究・学習したことをYoutubeなどで普通に公開出来て、かつ人に見てもらいたい欲求も満たされるので、却って就職活動と紐づけることで「あざとさ」を感じるという面もあります。
24	○一人で学習するより、「交流型」の方が、お互いに励ましになり刺激し合って向上する事もあるし、「交流」は大事である。また、学習する事で仲間ができ、ネットワークができる事もあると思う。 ○生涯学習司などは、自己確立のために養成講座を受ける人が多いという事だが、「自己確立」も大切だと思う。しかし、人材が不足しては困るので、活動自体が面白い、自己の向上に役立つようにできないであろうか。

	ご意見
	●全く知らなかった人と繋がる事には今の時代不安な事もあるが、その点では町会などは安心できる。
25	○書面で提示されている、生涯学習司等への講座受講前に資格取得後の活動指針の明示、及び受講者の資格取得後の期待との摺合せが必要不可欠と考えます。
26	○交流型の学習を推進するにあたっては、講座終了後に個人で交流の場を設定することや、発表の準備を行うことの難易度が高いと考えられるため、講座の中でケアしてあげることが必要ではないか。
27	○交流へつなげるには、やはり交流型の学習が有効だと思うので、一方通行になりがちなオンライン学習は課題が残ると思う。 また、町会に入る人が減り、町会の高齢化が進む中、若い子育て世代に地域に興味を持ってもらい更に横の繋がりができるような内容や取り組みを強化していくことが急務ではと思う。
28	○交流や地域のつながりの拡充を考える時、図書館・学校・地域センター等を核とした活動を視野に入れ、企画を検討していく仕組み作りが必要と考える。

## ⑤ 学習活動環境の充実に向けたネットワークの構築

	ご意見
29	○学習司・インタープリター・サポーターの資格者がそれぞれ養成講座で得た専門分野で生涯学習を支援できるようなしくみを確認する。3つの資格それぞれに生涯学習への役割は異なっているので、それがうまく運用されるような誘導が必要。 ○区民が生涯学習で得た知識を区民に還元するという形として区民プロデュース講座があり、これがうまく運用され区民にグレードの高い講座を提供できてきた。しかし、時代と共に課題が生じている。応募要項の見直しをはじめ、運用方法の検討など「知識を循環するのに最もふさわしい」新しい区民プロデュース講座になるようにすることが望ましい。
30	○コミュニティ形成の必要性や相互連携協力、成功事例の提示、民間との差別化などがキーワードになりそうです。「つながりづくり」と記載している通り今コロナ禍において誰かと同じ価値観を持って話ができることが精神的な安定剤の役割を担っていると考えられます。NHK あさいちでも報道されていましたが、何か自分の応援する子に喜んで貰いたい、ゲーム内で課金することで同じ土壌にいられる、などの理由で多額の投資をしてしまう40代の大学教授の話もあり、そんな人までそんなことに金を使うのか、と驚くばかりです。「つながり」というのは人の欲求を満たすものであるという考えで、どのように構築するかを考えていきたいです。
31	○生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターは、連絡を密にし無駄に重ならないよう効率的に活動して欲しい。それにはネットワーク作りが必要と思う。また、養成講座等を修了してもさらなるレベルアップも必要だし、本人にとっての向上

	ご意見
	心に繋がり、全体の向上にもなると思う。 ○文京区には、歴史的、文化的にも学習や講座になる物が多いので、活かして欲しい。
32	○講座の受講は主に知識の伝達に終わっていて、学習活動環境の充実という観点からは、不十分と言わざるを得ません。生涯学習活動ボランティアとして、積極的に活動している人が特定化され、次期役員選任に苦勞していると思われます。意欲のある人、時間のやりくりが出来る人を発掘していくために、そのインセンティブを働かせる工夫が望まれます。
33	○学習活動の地域還元イメージが湧かないことが大きな要因と考えられるため、成功事例を具体的に提示することは重要である。また、講座テーマが課題解決に関する場合は、学んだ内容を他者還元できる可能性が高いため、個人の趣味、生きがい等に偏らないラインナップの見直しも必要と考える。

⑥ その他

	ご意見
34	○可能ならば、Zoomでの会合も良いと思います。

## 2 スポーツ分野

### ① 区民の意識と行動

	ご意見
35	<p>○区が取り組んできて、改善されている部分の更なる強化が必要に思います。特に高齢者への更なる運動指導や健康寿命の向上などの取組が必要に思います。</p> <p>○仕事や家事なので、運動する時間がない区民への取組を検討することが必要に思います。さらに、若者などの運動実施率も低いので、その原因と対策を検討することが必要に思います。</p> <p>○障害者スポーツへの関心は、様々な側面からのアプローチが必要に思います。「スポーツ」という切り口の場合。体験会の実施などがメインになるように思います。</p>
36	<p>○「年代別で見た週に1日以上スポーツや運動を実施しているかどうか」調査で、20歳代が他の世代群と比して10ポイント以上低い理由を知りたいと思いました。統計上の度数が小さいことが影響しているのかとも思いますが、1つ考えられるのは健康づくりやストレス解消等よりも他に興味の対象があるのかとも思えますが、この世代を重点対象に絞り込んで、例えばスポセンなどを利用している同世代の若者から輪を広げもっと興味を持ってもらえる施策を模索し展開することを心がけるのも活性化の第一歩となるように思えます。</p>
37	<p>○スポーツが出来ない人のその理由は、仕事で忙しい、家事・育児等で忙しいが主な理由となっています。一方高齢者のスポーツ実施率が高くなっています。こうした背景を踏まえ、区の施設の利用アクセスの容易度を、勤労者等忙しい層へ今以上に重点配分することを検討する必要があると思われまます。</p>
38	<p>○スポーツ基本法の理念でもある「スポーツを通じて『国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む』ことができる社会の実現を目指している」ことを、広く周知させていく必要があると感じました。</p>
39	<p>○だれもスポーツを行う事は健康に良い事は知っているが、それを行うときの時間・場所・道具等を思うと身構えてしまいなかなかむずかしい。障害者のほとんどは自分からスポーツを1人で行う人は少ない。何人かグループで簡単なスポーツ、他区でも行っているポッチャ、吹き矢等興味を持ってそうなことから入った方がいいと思います。高齢者のスポーツを行った事がない方も入りやすいスポーツではないでしょうか。</p>

### ② スポーツの楽しさを知る機会の創出

	ご意見
40	<p>○タイトルからすると、様々な機会を提供するという印象があります。そのためには、ライフステージに応じた、運動機会の提供がメインになるかと思えます。</p> <p>○「見る」「支える」スポーツの中で、「支える」の部分で、研修の機会や指導者の養成の文言が入っていますが、タイトルからは、少し離れている印象を受けました。「する」「見る」「支える」と明確に分けたうえで、整理する方がわかりやすいと思いました。</p>

	ご意見
41	○誰もがスポーツの楽しさや価値を実感した経験は1度や2度ではないように思います。潜在的な興味はどの世代もあると思うので、もっと身近にその体験を再現できる機会・環境を提供する地道な施策を打ち続けることが、一番の近道であるように思います。折角東京ドームやプロサッカーチーム本拠地でもあるので、一定の試合観戦区民枠を設定してプロのスポーツのだいご味を味わってもらう機会を作るのも一考かと思いません。
42	○スポーツの楽しさは、やってみて、自ら体感することから始まると思います。そのためには、最初の第一歩で、その楽しさを教えてくれる優れた指導者が不可欠です。初級者用スポーツ講座を増やしてみてもどうでしょうか？
43	○私がスポーツの楽しさを知ったのは、地域の身近な子育て仲間からのお誘いがきっかけでした。大きなスポーツイベントだけでなく、地域コミュニティの中で（地域センターや小中学校の体育館を利用して）スポーツの楽しさと出会えるような機会を、より一層増やせると良いと思います。
44	○スポーツ指導者及びボランティアの育成も大切なことですが、障害の特性を知り、それに合った指導者、ボランティアの育成も各障害者と一緒にスポーツを通じて知ってほしいと願います。それがスポーツをする障害者の安心につながると思います。

### ③ スポーツに関する情報の発信と体制の整備

	ご意見
45	○「情報発信」の方法については、SNS や紙面、動画など、様々な発信方法があるかと思えます。一方で、情報過多やエンドユーザーを意識しない情報は、効果的ではないと考えます。情報を見た方々のわかりやすさという点を意識した発信内容が良いと思えます。「する」「見る」「支える」どの情報なのか？という視点での検討もわかりやすいと思えます。 ○「体制の整備」については、現在の区の情報発信ツールを利用したものや区民の様々な世代の方に情報が伝わる仕組みを検討いただくのが良いと思います。
46	○当該課題こそ、ICT が最も得意とする分野だと思うので、その活用をさらに積極化することに注力すべきと考えます。
47	○初心者には簡単な手軽にできるスポーツから情報提供、障害者スポーツに関心がない層には障害者と一緒に「ボッチャ」から始めては。だれでも出来るスポーツです。 ○段差の無いバリアフリーの障害者によって使いやすい施設の案内。

### ④ プロスポーツ等団体との連携・協力

	ご意見
48	○団体等の箇所、様々な団体があります。プロ、企業チーム、オリンピック、パラリンピック、JFC、地元のクラブチームなどがあります。それぞれのカテゴリーの強みと弱



	ご意見
	<p>みを明確にしたうえで、区民に最も還元できる連携や協力内容の検討が必要に思います。</p> <p>○ホストタウン事業などは、他の領域との連携も必須かと思えます。地域プロモーションや教育の側面など、複数の視点があると思うので、何をゴールにするのかという点を明確にしたうえで、検討することが必要に思います。</p>
49	<p>○上記②でも触れさせていただきましたが、文京区の恵まれた環境を活用し、もっと連携・協力を推進してはどうでしょうか。プロスポーツ等団体等が主催するキャンペーンを協賛する等、新しい連携の場が作れるように思えるのですが。</p>

### ⑤ スポーツを通じた交流の促進

	ご意見
50	<p>○④との差別化があまりできていない印象を受けました。交流の先にあるものを明確にする必要があると思います。④と⑤の違いを明確化することが、それぞれの取り組むべき課題が出てくるように思います。</p> <p>○資料を拝見すると「共生社会の実現」がメインとなっています。この交流の目標が、この点だけなのかという部分は、タイトルに合っていない印象を持ちました。</p>
51	<p>○ 障害者スポーツという表記をやめて、すべて『ユニバーサルスポーツ』という表記にできないでしょうか。障害者スポーツという言葉からは、「障害者だけが参加しているスポーツ」とか「障害者がスポーツを頑張っている姿を応援する」という印象を受けてしまいます。</p> <p>③の情報の発信と体制の整備についても、障害者スポーツ事業⇒ユニバーサルスポーツ事業と変更した方が、SDGsの流れにも合っているように感じます。</p>
52	<p>○近場で障害者が通いやすいスポーツ施設の環境整備</p> <p>○一般のスポーツ施設の一部を替えれば、一般の人（健常者）と障害者が一緒にスポーツが行える交流の場となりうるのではないのでしょうか。</p>

### ⑥ 新型コロナウイルス感染症への対応

	ご意見
53	<p>○新しい生活様式の準じたスポーツの在り方という点が重要に思います。家でできるもの、オンラインでできるもの、スポーツの部分で、感染症への対応となると、どうしても感染対策がメインになってきます。この部分では、感染症への対応が「感染対策」なのか「ポストコロナのスポーツ活動」なのかという部分を明確にしておいて方が良いと思いました。</p>
54	<p>○ウィズコロナ、ポストコロナにおいて、誰もが安心してスポーツを楽しめる環境を充実させていくことは、当該アカデミー推進協議会においても課された究極の課題だと思います。決して目先の施策だけにとどまらず、中長期的視点での協議ができる様、分科</p>

	ご意見
	会の一員として務めて参りたいと思っております。

## ⑦ スポーツの力を活用した施策の展開

	ご意見
55	<p>○5 分野の共通 Keyword があると良いと思います。「共生社会」もその一つかもしれません。</p> <p>○ここの施策でどのような「区民像」をイメージするかという点だと思います。例えば、「いつまでも生き活きと自立した生活ができる」とか、なってもらいたい区民像をイメージすると良いアイデアが出るように思いました。</p>
56	<p>○ユニバーサルスポーツの推進は、差別やハラスメントの根絶に向けた環境作りにも寄与できるだけでなく、ユニバーサルデザインの街作りやインクルーシブ環境の構築にも重要な役割を果たすことが可能だと感じています。また日本サッカー協会の取り組み「JFL2021 チャレンジ」が、スポーツと海洋資源保護活動を繋げるなど、SDGs をスポーツの力を活用することにより達成できないか検討して欲しいと思います。</p> <p>参考 (<a href="http://www.jfa.jp/national_team/mens_all_2021/news/00027008/">http://www.jfa.jp/national_team/mens_all_2021/news/00027008/</a>)</p>

## ⑧ その他

	ご意見
57	<p>○スポーツ施設は一般（健常者）用に造られている。その一部が障害者にとって利用しやすいように着替えの場所、車いすで入るトイレ及び手すりのあるトイレ、シャワールーム、廊下等、改装が必要な所もあるが、手すりを加える、イスを置くだけで十分な場所になる。もし将来的に改装する場合は各障害者の意見立会のもとにお願いしたい。</p>

## 3 文化芸術分野

## ① 文化芸術に触れることのできる機会の確保

	ご意見
58	<p>○コロナの影響からの早期脱却を目指し、「鑑賞」と「活動（創造）」の両面での停滞を防ぐ為にも、動画配信活用が急務であり、オンライン・YouTube・CATV等の活用計画策定と実現に取り組むことが必要。</p> <p>○地域の拠点として、学校の視聴覚室の活用や図書館・地域センター等での視聴覚サービスの導入・提供といった「場を増やしていく」ことも有効と考える。</p>
59	<p>○感染拡大防止対策を徹底し、「機会」を創出することと、「施設」を活用すること、「オンライン」での開催に主催する側受講する側も慣れること、が重要と感じました。それらを実現するために、「どうしたら安全安心なのかのガイドラインを明確にすること」「オンライン講座のための講座を開催しweb完結のバリアフリーを目指すこと」「屋外屋内の施設の安心安全な活用方法の開拓」あたりがテーマになりそうに思っています。</p>
60	<p>○鑑賞や活動等で対面に勝るものはないが、オンラインでの講演や勉強会等がよく行われるようになったし、コロナの終息後も、利便性等から利用されると思う。その場合、オンラインと対面との併用で、それぞれの利点を活かした活動が望ましい。</p> <p>○場所（会場）の確保は大変だと思う。引き続き使用できる所も、殆どが感染防止の為に人数制限をしているし。また、（学校などで）一部の施設を教室に作り替えるという事もあると聞く。</p> <p>○デジタルが有効だが、「だれも触れる事ができる」という事では、（デジタルに弱い人もいる。「弱者」をどう配慮して支援をしていくかが課題である。</p> <p>●70代半の女性が、孫とラインで交流するうちに操作等を覚え、Zoomの講演会にも出席するようになった事も聞きました。構えて「教える」のではなく自然に学び、技能が向上するという流れもあるように思います。</p>
61	<p>○シビックホールの改修期間であるため、区民の文化芸術鑑賞機会が減っているのはやむをえませんが、シビックホールは区民にとって、レベルの高い芸術が近くで、かつ安価楽しめることが、特別な魅力です。改修期間では、代替機会を出来る限り増やす施策を講じる必要があると思います。</p>
62	<p>○コロナ収束後での提案          &lt;町ごと美術館 博物館&gt;          文化芸術は必ずしも有から無へ、上から下へと提供するものばかりではない。日々の生活の場に息づいている店舗のショーウィンドー、生垣の花々、人々の会話の中にも、鑑賞の対象となり得るものや、鑑賞につながるきっかけがある。まずは明るく清潔な街づくりから。</p>
63	<p>○生活必需品でないとなみなされてしまう文化芸術は、一度人々との接点が途絶えてしまうと、鑑賞、活動の場を人に呼び戻すことが困難になると考えられる。そのため、従来のような意欲ある人が鑑賞に行くようなスタイルだけではなく、より多くの人が生活の</p>

	ご意見
	中で文化芸術に触れることができるような仕組み作りが必要と考えられる。
64	<p>○この1年、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限があったが、今後ワクチン接種の進み具合などで状況が変わることも予想される。あまり保守的な対応をしていても区民の気持ちも疲れてしまうのではないかと思う。</p> <p>オンラインもちろん大切だが、出来ることを積極的に実施していくことも区民にとって有益なのではないかと思う。</p> <p>例えば、文京区をまるごと美術館のようにして、めぐることのできる企画や、音楽も欧米のように公園など屋外でのオープンコンサートのようなものも面白く、だれでも参加できる企画として考えていくのはどうか。</p>

## ② 文化芸術の次世代を担う人材の育成

	ご意見
65	<p>○子供は親・親族・友達からの影響を受け易く、そのような集団・チームをセットとして計画策定していくとの方向も有効と考える。</p> <p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>例えば、親子を対象とした楽器教室など（オンラインが可能）でしたら、親のフォローも期待でき、習熟意欲・継続性に有効と思う。</p>
66	<p>○「子供たちに伝える」伝統文化において一番直面している課題です。芸術文化振興費補助金が昨年度の補正予算を未だに使用するくらい多くの予算を割いて、各団体の申請に応じてあてがわれておりますが、その多くはメディア芸術（アニメーション、電子機器を利用した芸術）関連で多くを占めています。単純に子供たちが取っつきやすいということで、例えば文化庁令和二年度収益力強化事業でも採択を受けた案件は、ほぼ100%上記絡みのもので御座いました。大人もきちんと分かっていない「文化芸術（特に伝統文化）がなぜ必要なのか」という問いに、自信を持って応えられる、子供らを納得させることの出来る答えを示してやる必要があります。</p> <p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>歴史を学習する中でこれまで世の中で活躍してきた武将や偉人がどのように文化芸術をたしなんでいたかを探る、とか、コロナ禍において人と交流出来ないことで精神的に追いつめられるケースで文化芸術や学習活動によって自身を磨くことの重要性に気づかせるきっかけにする、など。</p>
67	<p>○大学等にも文化芸術の部活やサークル活動があるので、大人（中・高年も含め）子供達との交流も良いと思う。日本の伝統芸術のサークル等も大学にはあるが（大学に限らず若者のグループ等も）、アニメ等も貴重な「文化」と思う。また、クラシックバレエ等の鑑賞や理論的勉強も、これからの若い人達が興味を持って担ってくれると思う。伝統文化という古い日本的なものを考えがちであるが（それも文化資産であり尊重すべきものだが）「新しい文化」を築いていくのも次世代の人達である。</p>

	ご意見
	<p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>○（今はコロナ感染防止の為に全面的に停止されているが）例えば茶道、お茶を味わう事で「実践の入り口」となるが、生け花、作法、掛け軸や道具、茶室、庭園等の鑑賞において非常に高い芸術性がある。</p> <p>○能の鑑賞等、宝生能楽堂もあるが、子供達に基本的な動作や歴史等が簡単に説明されると（芸術性が高いものなので）、興味を持ちもっと習いたいという子供も出て来ると思う。</p>
68	<p>○子供たちへのアプローチを、区・芸術団体・学校が連携して行える仕組みを整えていくことが大事だと思います。私は、中学校時代に学校の先生が、能の鑑賞に連れて行ってくれたので、今でも能楽への関心が続いています。</p> <p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>上記の観点から、中学校等の先生の鑑賞機会を設けられないでしょうか？</p>
69	<p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>&lt;例&gt;子ども一箱本屋さん</p> <p>不要となった本や文具などを持ち寄り、一人一人が店主となり、提供された段ボール箱の上において、販売（？）または物々交換を行う。</p>
70	<p>○ウィズコロナ期で安全を担保した形での人材育成が困難な場合、学習分野での連携による興味・関心の育成は重要である。</p> <p>若手の育成においては、「文化資本」や「家庭の文化的環境」の影響を考慮し、家庭環境以外で文化芸術に触れる場を平等に提供することが肝要である。</p> <p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>子どもむけのオンラインコンテンツの提供や、学芸員や芸術家によるヴァーチャルレクチャー／ツアーを通して、敷居が高いと考えられる文化芸術の鑑賞の仕方や楽しみを学べるのではないかな。</p> <p>参考</p> <p>ルーブル美術館「ルーブルキッズ」<a href="https://louvrekids.louvre.fr/">https://louvrekids.louvre.fr/</a></p> <p>MOMA「MOMA キッズ」<a href="https://www.moma.org/audio/playlist/289">https://www.moma.org/audio/playlist/289</a></p> <p>ニューヨークフィル「キッズゾーン」<a href="https://nyphilkids.org/index.html">https://nyphilkids.org/index.html</a></p>
71	<p>○各文化芸術団体が積極的に人材の育成を行っているとは思いますが、やはり子どもの頃から触れていくことで培われていくものもあるのではと思う。</p> <p>楽しいだけでなく、今後の日本経済、文化の中で重要な役割を担っていくものであることを積極的にアピールしていくことも必要ではないかな。</p> <p><b>【具体的な取組案】</b></p> <p>自分から積極的にイベントに参加するのは、ご家庭のお考えなどもあり、なかなか難しいものがあると思うので、そこに行きつく為に学校と協力し定期的に授業を実施していくのはどうか。</p>

	ご意見
	試験的に、学校ごとに分野を分けるなどするのも面白いのではと思う。
72	●専門外なので個人的な感想として。今まで同様に、親子（大人も子どもも）楽しめるレベルの高い「子ども向け」芸術の提供を望みます。「子どもだまし」ではなく、小さい頃から「本物」に出会うことができる機会をますます増やしていただきたいと思います。私自身も60年以上前文京公会堂に3才のころ、大人向きのピアノコンサートやオペラによく出かけました。文京区主催でなかったにしろ、シビックホールは昔から「子どもに本物を聴かせる・観せる」場所として歴史があるようです。

### ③ 文化資源の再発見と活用の推進

	ご意見
73	○観光分野との連携も視野に入れ、協定他自治体との連携・協働により、これまでに無い文化芸術資源に触れることも望まれる。 ○デジタル技術の発展（高精細化、ドローン技術等）により、これまでの文化資源の見方、見せ方が変化する可能性もあり、そういった視点での検討も、是非必要と考える。
74	○地域文化（=文京区内に存在する文化資源）の再発見とそれらの適切な活用というのがテーマの中で、これまでも協議会の中で文化資源はたくさんある、という意見が多かったが果たしてその文化資源は本当にこれからの時代で多くの人に触れる意義のあるものなのか、次世代に引き継いでいく必要のあるものなのか、は一度整理しておく必要があると感じております。そこにあるから活用しないと勿体ないという考えに凝り固まらないことを望みます。何かに特化して研究している詳しい人は、それらを一方的強制的に推しがちなのでそこは文京区としてやるべきことをきちんと見極めることが大事だと考えます。
75	○カイザースラウテルン市と姉妹都市であるが、ドイツの文化等を学ぶことも若い人も興味を持つと思う。 ○コロナの影響でデジタルを重用する昨今ではあるが、そればかりでなく積極的にデジタル技術を利用して、新しい文化に活用していく、さらに高めていく事もできるのではないか。 ○文化芸術を学んだ区民が、その知識を活かし、新たに創造していくこともあると思う。
76	○コロナ禍であり、また、シビックホール改修期間という二重に文化芸術を直接楽しめる機会が、当面望めない現状では、やむをえません。やはり、文化芸術は直接触れることが最大の醍醐味です。オンラインの活用、今後のデジタル技術の活用と同時に、このことを追及して行きたいと思います。
77	○鑑賞者の裾野を広げないと、文化芸術は生きのびてゆけない。 質の高い文化芸術に恵まれている文京区ではあるが、ここで少し視点、角度をかえて、世界で高い評価を得ている日本の漫画、コミック等のサブカルチャーを取り上げてみてはいかがか。

	ご意見
	この手のものは、子供から大人までファン層がかなり広いので。幸い、区内にはこれらを扱う大手の出版社、印刷会社当が在しているので、協力を仰ぐのも一案。
78	○住民や来訪者にとって親しみやすい切り口でのコラボレーションによって、既存の文化資源の再提示が重要ではないか。 また、観光分野での連携を視野に、在住・在学・在勤の外国籍の方の意見を取り入れることで、新たな視点で地域資源の再評価ができる可能性もあると考えられる。
79	○東京オリンピック・パラリンピックで肌で感じてもらえる文化は減ったように感じるが、同時に世界中にオンラインでアピールすることは想定していたよりも大きな反響があるのではと思う。 デジタル技術を活かした新しい文化資源は区民も関心のあるところではないかと思うので、共に作り上げていくものであっても良いのでは。 また、区民だから実際に触れることのできる文化もあるので、それを区民が主体（リポーター等）となって発信したりすることも、文化の再発見等に繋がると思う。

## ④ 文化芸術の性質を踏まえた支援の充実

	ご意見
80	○文化芸術を守るということは、その提供者を守ることに他ならないと考えます。その為に、改めて、自治体として、どこまで関わるのか、どのように関わるのかを明確にする必要があると考えます。
81	○前回の書面開催協議会の意見を取り入れて頂き感謝申し上げます。一見関係なさそうな物でも文化芸術振興の一環として重要な役割を果たしているものがあります。一例として「松」立木など、能楽の一部の曲目を上演するのに不可欠なのですが、必要な時期に必要なだけ使うのでは流通させられません、ある程度定量をコンスタントに使用する当てが無いと松林を管理している人が育てられないからです。全国の能楽堂で橋掛かりの松を生木で毎月交換しているのは宝生能楽堂だけです。それはある程度まとまった量を使用することで一年中いつでも松を使えるようにするための、いわば能楽界のための宝生会の慈善事業とも言えます。伝統文化はお互いを思いやり、感謝し、その思いの大切さを次世代に受け継いでいくという、まさに日本人好みで今のコロナ禍だからこそ理解される性質の芸能であります。その場しのぎで瞬間的に楽しいものへの集中、稀薄な人間関係など現代に特有の問題課題に対抗するために、国や自治体が力を入れていく、これらは学習活動やスポーツにおいても当てはまる重要なことだと思っています。②で記載した「子供たちを納得させることの出来る答え」のヒントがここに有るような気がしてなりません。
82	○確かに、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったし、活動が停滞した事も多かった。集まって練習できない事も致命的なところがある。しかし、(スマホのメールは大概の人はできるし) デジタルで繋がっていけないであろうか。また、若い人はデジタル

	ご意見
	も得意だし（町会等を通してでも）引き込んでいって、新たなネットワークが構築できれば良いと思う。
83	○限られた予算を考慮すると、個別支援ではなく、文化芸術活動団体の共通ニーズを捉えて包括的に支援することが重要である。 また、行政だけの支援で不足する場合には、メセナ、クラウドファンディング等、ファンデ獲得方法についての支援をすることも必要と考える。
84	○コロナ禍において、文化芸術、スポーツの果たす役割の大きさを実感しているのは区民も同じだと思うが、様々な立場や考え方がある中でメンバーの減少を止めることは難しい。 これまで文化芸術とは関係のなかった企業の力を借りるなど、新しい動きが必要ではないか。 学校においては、特に子ども達のメンタルヘルスの問題が課題となっている中で、文化芸術の果たす役割は大きなものであることを感じる。国や自治体が子ども達の文化芸術に触れる機会を増やすことで、双方の課題をクリアしていくことができるのではないかと思う。

## ⑤その他

	ご意見
85	○長引くコロナ禍の影響で停滞しがちにはなっているが、少しずつでも回復させていく他ないと思う。感染対策は怠ってはならないが。



## 4 観光分野

## ① 新たな生活様式に対応した観光スタイルの確立

	ご意見
86	<p>○インバウンドの回復見込みが立つまでは、やはり近隣および区民参加のサービス拡充に賛成いたします。</p> <p>○SNS などへの情報発信は「食」分野が主ではあるが、マイクロツーリズムの視点からの価値発見は、「衣」「食」「住」をバランス良く、見つめなおしても良いと思います。例えば「衣」ではサステイナブルやデザイン関係も。各種大学、都立工芸高校、専門学校などコンテンツは意外にも豊富に思います。</p>
87	<p>○オンラインシステムの活用で、世界中に発信、24 時間可能。文京区との日本国内の友好都市とも連携し、地方の外国人、日本人の人物交流、産業復興の PR 協力など、無限大の協力ができるので、これを軸に観光 PR を再検討できるといいですね。例えば、ドローンや、スマホの地図などを活用して、バーチャル文京区散歩館など世界に発信したいですね。</p> <p>●少子高齢化、多文化社会、SDGs を意識した社会に基づく観光を意識すれば新しい時代の観光のありかたが見えるかもしれませんね。</p>
88	<p>○新たな生活様式について、どのような様式を想定しているのかその定義付けを明確化しないと、対応した観光スタイルが的外れにならないでしょうか？</p> <p>○「地域の観光資源を新たに開拓する、区民参加型の観光サービス」「区内事業者の紹介」等は、文京区の地域を起点 (ex. 谷根千、茗荷谷界限等) とした区内住民の facebook や SNS のサイトがあるので、その様なサイトとコラボしてボランティアとして参加してもらうことも一考ではないでしょうか。</p>
89	<p>○コロナウイルス感染拡大に伴い様々な対応の変化を迫られた観光分野だが、この対応を一過性のものととらえず、ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた多様な観光スタイルに応じた施策展開が重要である。</p>

## ② 観光資源の活用・保護による新たな魅力の創出

	ご意見
90	<p>○「芸術文化等との融合型事業が重要」の部分に強く共感します。お互いの強みや弱点を補完できるように感じます。</p>
91	<p>○歴史的、文化的観光の発掘だけでなく、新しい時代にふさわしい、現代的視点と国際化視点からの観光になる、文京区の文化、芸術、教育等をアピールしたいですね。</p>
92	<p>○観光ボランティアについては、既定コースごとの観光ガイド等のイメージしかないのですが、例えば観光マップ上のスポットの観光インフォメーションの動画に出演してご案内いただく等、多様なご活躍の場を提供することは難しいのでしょうか。</p>
93	<p>○スタンプラリー企画など、区内の観光資源をつなげるイベントの企画を通じて、区への来訪の目的がある特定の観光地・観光資源にとどまらず、回遊性を高めるような工夫が</p>

ご意見	
	必要である。また、観光ボランティアについては、オンラインツアーの支援を行うボランティアの育成等、新たな観光の形に即したボランティアの養成が重要と考える。

## ③ 区内観光の情報の収集・活用による来訪の促進

ご意見	
94	○「WEB、SNS、YouTube などの様々な媒体を通じた」の表記は、SNS、YouTube は WEB 媒体でもあるので「SNS、YouTube などの様々な WEB 媒体を通じた」にしてはいかがでしょうか。
95	○SNS を積極的に活用する上で、Instagram を積極活用してはいかがだろうか。ハッシュタグをつけて写真を投稿してもらうなど。コンテンツの企画も有効と考えます。菅工房ボランティアの育成は内部からの取り組みと考えると、Instagram が外部の方の積極的な取り組みと位置づけできます。ポスター掲示などは飲食店や商工事業者にも協力を頼む。大学生の発信力も強力で連携できないか、考える余地があると思います。
96	○世界の視点、地方の視点から、文京区の魅力を探したいですね。スマホ、留学生、外国人による海外観光アピールを導入したいですね。
97	○観光目的、世代など、様々なターゲットを想定し、それに応じた観光に関する情報発信を行うことが求められる。 ●SNS の活用には、画像や動画の投稿が主である Instagram を重点的に活用することが重要と考えられる。花の 5 大祭りなど、文京区の観光資源は Instagram でも若い世代を中心に注目を集めており、区が主体的に情報発信することでさらなる集客効果を得ることができるのではないかと考える。

## ④ 区民・来訪者から愛され続ける観光振興の推進

ご意見	
98	○自転車での回遊は魅力的です。健康維持（セルフメディケーション）的訴求から文京区を自転車で回ってもらう企画（マップづくり）も面白いのではないかと考える。
99	○国内友好都市拡大、海外への発信で観光によるトモダチ作戦で来訪者を増やす。インターネットとスマホを活用した仲間づくりと観光がこらぼできるといいですね。
100	○シビックセンターの展望室での取組等楽しい企画を各所で開催する地道な積み重ねが必要だと思います。
101	○区内の観光情報をまとめ、その魅力を発信するプラットフォームの創出が求められていると考える。

## ⑤ その他

ご意見	
102	○私たちは小さな日本語学校ですが、オンラインで日本語教育を行い、国際化に興味のある

	ご意見
	<p>る地方の大学学生と文京区の大学学生とアジアの国立、私立、理工系大学、高校とアジアの提携大学（現在 15 大学）で日本語教育行い、その授業の中でも文京区内の観光写真を活用して、1 万人を目標に文京区の魅力を伝えていく計画です。文京区とコラボできるといいですね。海外の学生自慢、日本国内の友好都市自慢、文京区の自慢を日本語で、写真を使って交流をかんがえております。高校生も含む。</p>

## 5 国内・国際交流分野

## ① ICT を活用した非接触型の交流の必要性

	ご意見
103	○「ICT を活用した交流は、テレビ電話のようなオンラインの取り組みに限らず、SNS を活用した取り組みにも…」の表記は、SNS もオンライン媒体であることから「ICT を活用した交流は、オンラインによるテレビ電話に限らず、SNS を活用した取り組みにも…」にしてはいかがでしょうか。
104	○アカデミー担当委員含め、協定を締結している都市・自治体とのオンラインミーティングの機会を設けてみてはいかがだろうか？我々内部からは見えていない貴重な意見が出てくると思います。
105	○ICT を活用し、それまで時間や費用などの制約から頻回に行うことが難しかった遠隔地の協定締結都市・自治体との交流をこれまで以上に促進させる。
106	○コロナ禍の中、ICT の活用は絶好のチャンスと捉え、失敗を恐れず新しい交流の形を模索するチャレンジの機会と捉えてなんでもやってみることが肝要である。最初からベストな交流ツール構築を目指す必要はないと考えます。

## ② 区民ニーズの把握と興味・関心に応じた取組の充実

	ご意見
107	○区民および区内在住の在学外国人のニーズの把握が重要と賛同します。
108	○区民のニーズについては昨年度の調査等である程度調査できている一方で、区内在住・在学外国人をターゲットに絞ったニーズの調査が不十分であるように感じる。彼らのニーズを例えば職場や学校を通じて調査するほか、区内在住・在学外国人同士が情報交換できるような場を創出することも重要であると考えます。
109	○「交流イベントにおける参加者の減少」は、区内在住・在学外国人のニーズとマッチしなくなっている可能性が大であると思われます。その差異を補完するには、当該外国人自ら動いてもらう仕組みが必要であり、例えば「交流分野」の区民応募委員外人枠を設ける、又は分科会にオブザーバーとして参加してもらう等、意見を吸い上げる工夫が必要と考えます。

## ③ 体験から継続までを見据えた連続性の重視

	ご意見
110	○国際交流分野ではないが、体験イベントとして継続性を持たせ続けているのが、ホームセンター「カインズ」のワークショップ体験。区として継続性を持たせる企画は難しい場合は、区内の民間企業との協力も必要かと思えます。
111	○区民のニーズについては昨年度の調査等である程度調査できている一方で、区内在住・在学外国人をターゲットに絞ったニーズの調査が不十分であるように感じる。彼らのニーズを例えば職場や学校を通じて調査するほか、区内在住・在学外国人同士が情報交換

ご意見	
	できるような場を創出することも重要であるとする。

## ④ 多分野との連携による事業展開を見据えた交流

ご意見	
112	○6次化は1次産業事業者による2次・3次への取り組みと考えられがちだが、2次・3次産業事業者が国内13自治体で生産を始めることも考えられます。商工事業者への新たなチャンスと考えると、他分野・他地域との連携は無限の可能性を秘めている。区からの補助や助成があると事業者としては動きやすいのでこちらは経済課さんとの連携か。
113	○区民が主体となって、もっと気軽に都市交流に参画できるよう、認知度向上、ICTの活用、民間団体との協力、庁内の関係各課との連携強化などをさらに促進させる。

## ⑤ 国際交流都市・国内交流自治体の認知度が低い

ご意見	
114	○区民の認知度が低いことへの対策は露出を増やしていくことに尽きる。地道だがポスター掲示やフライヤーの配布などを続けていくことが大切だと考えます。アフターコロナでイベント実施できるようになったらすぐ始められるように、協定自治体との議論は常に続けていくと良いと思います。イベントへの規制・抑制がこれまでに強いので、解禁されるとインバウンドと同様にこれまでにない効果をもたらす可能性もあると考えます。
115	○都市・自治体交流の認知度向上にも、SNSの活用が有効であるとする。物産展やフェアの開催時期に併せて、交流先の都市の文化、景観等をSNSで紹介し、認知度を向上させると同時にイベント来場者の増加を狙う。

## ⑥ 外国人との交流機会の充実

ご意見	
116	○やさしい日本語の充実とともに、文字を大きくして読みやすくする必要も。区内在住の外国人によるオンラインミーティングを実施し、ニーズをくみ取ってみても良いと考えます。交流を求めているのは外国人も同様かと思えます。
117	○区内在住・在学外国人との交流機会増加の取り組みとともに、外国人同士が気軽に情報交換できるような場の創出についても重要視すべきとする。 ●行政文書の多言語化や「やさしい日本語」の活用と併せて、区内在住・在学外国人が行政手続き等で困ったことがあったときに気軽に相談できるような、「やさしい日本語」対応の窓口の開設、または外国人向けの生活支援ボランティアを設置することも必要であるとする。

## ⑦その他

	ご意見
118	○日本国籍以外を保持する、いわゆる「外国人」以外にも、国外にルーツを持つ区内在住・在学者の存在にも目を向け、彼らを交流の場から取り残さない工夫についても念頭に置くべきであるとする。

以上